

# 平成 29 年度 事業報告

## 社会福祉法人 音更晩成園

少子高齢化の進展により労働人口が減少し、一部の業種を除いて人材確保が全国的に課題となっている。特に、福祉・介護業界における人材不足は深刻で、需要が拡大する反面、若者の福祉離れも加わり、慢性的な人手不足に陥っている。十勝管内においても、人員不足によりやむを得ずユニットの一部閉鎖やサービスの停止を行っている老人介護施設があると聞く。

本法人においては、今年度、年間を通じてハローワーク、人材センター、学校関係のほかホームページ等で経験・未経験を問わず求人を行ったことで、欠員補充のほか将来を見据えての職員の増員を行うことが出来たが、育成と定着に向けエルダー職員をはじめとして法人全体での取り組んでいるところである。

また、重点目標としていた『施設整備』に関しては、国の限られた財源により 30 年度当初予算の補助対象としては採択されなかったが、北海道はじめ音更町等行政機関にもその必要性を理解していただいております、今後も粘り強く準備を進めていくものである。

その他改正社会福祉法の本格施行を受けて、定款変更はじめ必要な対応を図るとともに、社会福祉充実残額の用途に関する社会福祉充実計画の提出を行ったところである。

また、アンガーマネジメント研修やメンタルヘルズ講習を開催し、利用者の権利擁護に関する職員の専門性と意識向上に努めてきた。

なお、主な実施項目は以下の通りであるが、詳細については各施設、事業所の報告を参照されたい

### 【実施項目】

#### ○社会福祉法人制度改革への取り組み

- ・ 定款変更を始めとしての対応と経営情報公表による透明性の確保
- ・ 社会福祉充実計画の提出

#### ○施設整備計画

- ・ 晩成学園、緑陽荘の改築移転と生活介護事業所設置計画の推進
- ・ グループホーム建築準備のための情報収集と旧木野西寮の解体
- ・ デイセンター支援員室の拡張
- ・ 音更町の援助による就労事業設備の改善と更新

#### ○利用者の権利擁護と災害への備え

- ・ 非常災害の研修・訓練等の実施と災害時における食事提供訓練
- ・ 権利擁護、虐待防止に関する研修会の実施と外部研修への参加
- ・ グループホームにおける夜間支援体制の検討
- ・ 日中活動の充実
- ・ 食肉加工品の価格の検討

#### ○人材確保と育成及び定着と福利厚生

- ・ 職員の定着・資質向上と勤務条件の改善  
(就業規則・給与規程の見直し、エルダー制度の活用)
- ・ 職員の健康管理

## 晩成学園 事業報告

平成 29 年度の晩成学園に於いては急速な高齢化がすすむ中、細かなケアを必要とする利用者が増加の一途をたどっており、こうしたことを踏まえ 医療、介護などの専門的ケア、健康作りや介護予防に関する生活支援が一体的に提供できる体制作りが急務に迫られ、支援スタッフの知識の習得と意識向上、資質向上を常に図ってきました。多様化する利用者ニーズに対して、いかに対応できるか、また、経営的感覚も持ちながら事業を進めていく重要性も常に意識付けを行い、利用者の高齢化・重度化に加え、障害種別の多様化により利用者個々の特性に応じた、「求められる支援」や合理的配慮を行えるよう取り組んできました。しかし、未だに職員の経験・知識不足が感じられる場面や各部署における体制作りが不十分なところも有り、十分な結果にはまだまだつながっていない所もあり、今後も支援体制の見直しやサービス提供のあり方など重要課題として再確認をする必要があると思われます。今後も利用者個々の能力を最大限活かし利用者の不安、不満につながる支援サービスとならないよう、新年度についても意識をしていきたいと思えます。

日中活動など個々の利用者が楽しく生き甲斐を持って参加して頂けるよう内容の充実化も図りながら実施してきました。特に屋外での活動では、農地を利用した農作業活動や古紙、アルミ缶選別などのリサイクル活動を取り入れ、個々の利用者の特性に合った活動に取り組んでもらえるよう環境作りも行いました。

当施設の設定備や作業機械等は開設当初からの備品も多く、著しく老朽化が進んでおりハード面においても新規の入れ替えや修繕が急がれるところであります。利用者、職員、問わず住みやすい、働きやすい職場環境づくりを今後も目指していきたいと考えています。

### □支援体制の充実

- ・利用者の重度・高齢化、障がいの多様化に応え、強度行動障がい者の個々の行動に合わせた 支援計画の作成と記録整備の実施
- ・個別のニーズに合わせた個別支援計画の作成とモニタリングの実施（年 2 回）
- ・具体的な計画作成の為、週間カリキュラム会議（毎週）、月間カリキュラム会議（毎月）の実施
- ・日常的に起こるヒヤリ・ハットを再検証し未然の事故防止対策としての検討会議を実施
- ・医療的ケアの支援が行えるよう外部講師を招き、介護用品の取扱研修等の実施
- ・強度行動障がい者基礎研修の受講を全職員対象に実施

### □日中活動の充実

- ・重度・高齢化に伴い機能維持を目的とした機能訓練やリハビリ的活動の実施  
個々の身体状況や症状に配慮しながら、残存機能の維持回復を図る為の健康予防体操・リハ ビリ体操・便秘予防体操・嚥下体操・マッサージの往診・手足のマッサージ・フットバス等を実施
- ・絵画・壁面作りの創作活動の実践を元に、「みんなあーと」への作品出展
- ・ウォーキング・ビデオ体操・軽運動、レクリエーションの実施
- ・サークル活動の実施（創作活動や軽運動等、利用者のニーズに合わせたプランで実施）
- ・余暇支援の実施（通年）
- ・道内・外への小グループによる旅行の実施
- ・自治会主催の余暇活動実施（プロ野球観戦／温泉一泊）
- ・農業機械（スプレイヤー）の老朽に伴い作業活動の効率化を図るため購入
- ・活動時の作品販売のため・直売店 well 開店（5月～10月まで）
- ・利用者自治会「ひまわり会」主催行事 まんぷくまつり 開催

- ・利用者自治会「ひまわり会」主催行事 年忘れパーティー 開催

#### □対外行事及び地域貢献

- ・東土狩地区「花咲ける郷」地域活動の路肩ほか地域周辺のゴミ拾い・除草作業に参加
- ・福祉まつり in おとふけ参加・出店
- ・十勝ばん馬まつり参加・出品
- ・大谷短大 蘭華祭参加・出品
- ・帯広ライオンズクラブ招待 ボウリング大会参加（スズランボウル）

#### □医療と給食

利用者の高齢化がすすむ中、個々の疾病状況や日々の様子観察を通して、早期発見・早期受診を心掛け、健康管理と食事提供に関する検討を重ね、健康寿命の維持に努めてきました。細かなケアを必要とする利用者が増加する中で、毎日健康で生き甲斐を持ちながら施設で暮らして頂くため地域医療、看護師、生活支援員、栄養士、調理師等、それぞれの専門職配置を元に連携を密にしながら、健康維持と医療ケアの両面から対応してきました。健康に対する支援は、今後もより重要となってきていますが「食」に関しては健康維持、長寿に欠かせない行為である一方、特に食事形態についても様々な形態が望まれ今後も支援体制の連携を密にし365日24時間の生活を支える支援体制を構築していきたいと考えています。

- ・健康診断の実施（春と秋の2回～往診による実施）
- ・前立腺がん検診の実施（健康診断時に実施）
- ・歯科検診を往診にて実施（緑陽台歯科）
- ・子宮がん検診・乳がん検診の実施
- ・骨粗鬆症検診の実施
- ・肺炎球菌ワクチン接種の実施
- ・インフルエンザ予防接種を往診にて実施
- ・感染症についての対応（年間を通してのうがい・手洗い・消毒、園舎内の清掃の徹底）

#### □権利擁護・虐待防止

- ・道知協や道社協主催の権利擁護研修会に参加
- ・各種希望や要望について自己決定権を尊重し、利用者へのアンケートの実施
- ・虐待防止に関しての自己チェックの実施と検証
- ・権利擁護・虐待防止についての施設内研修の実施

#### □人材育成・研修関係

専門知識の習得やスキルアップを図り、人材育成に努めると共に資格取得の推進を図り、個々の資質向上に繋がるよう努めてきました。エルダー制度を利用した職員の人材確保と細かな業務内容の引き継ぎを行いながら、即戦力のある人材育成が出来るよう努めてきました。

強度行動障がい基礎研修に関しては、全職員の取得を完了し、更なる障がい者支援に理解を深めています。

#### □防 災

突然襲われる自然災害など防災の意識をより一層高め、緊急時のライフラインの確保や災害時の速やかな対応が出来るよう当施設に於いても避難経路の再確認や緊急時の食料支援やその他防災備品の準備等、進めてきました。火災避難訓練、自然災害訓練を年3回実施し、その他、災害を想定した炊き出し訓練を実施し防災意識を高めました。

#### □施設入退所関係

- ・ 4 / 3～通所2名 入所1名 新規利用開始
- ・ 4 / 15～男性（69歳）急死（肺腺症による呼吸不全）により入所契約解除

- ・ 11 / 30～女性（68歳）入院療養中であつたが死去（呼吸器不全）により入所契約解除
- ・ 12 / 4～男性（60歳）通所契約 利用開始

## 緑陽荘 事業報告

少子・高齢化による人口の変化が社会全体に与える影響は日を増す毎に大きな拡がりを見せています。65歳以上の高齢者が人口の30%を超えることで生じる社会保障費の増大、また介護・医療従事者の人材不足などが指摘されている「2025年問題」を数年後に控え、福祉業界のみならず大きな社会問題となっています。

そうした厳しい状況の中、さらに「働き方改革」といった労働環境の整備にも取り組んでいかなければなりません、どのような状況であっても私たちは福祉の担い手として、サービスを利用される一人ひとりの生活を支えていくという事に変わりはありません。時代と共に変容する社会福祉の今あるべき姿をしっかりと見据え、弛まぬ研鑽に努めていきます。

### □利用者支援

- ・ 個別支援計画をもとに利用者の意思や自立を尊重し、適切な支援・介護を実践するとともに、職員一人ひとりが専門職としてのスキルを高めるために各種研修会に積極的に参加しました。

- ・ 3班体制で支援を行ってききましたが、利用者の重度、高齢化に伴う個別支援の比重が増えてきていること、またその障がい特性やニーズに沿ったきめ細かな支援・介護が必要との判断から、組織体制の見直しが検討されました（30年度より1係4班体制に変更）。

#### ①施設入所支援（平均利用人員 30.8名）

- ・ 女性1名が介護保険施設を利用される事になり退所されています。
- ・ 加齢に伴う心身の変化から数名の利用者が身体障害者手帳の交付手続きを行い、補装具を申請、作製するケースがありました。また介護方法を模索する事も見受けられたことから、医療機関の協力や専門資格を有する職員を中心にケース会議を開催、利用者の状態に合わせた介護が行えるよう取り組みました。

#### ②生活介護（平均利用人員 46.8名）

- ・ 創作活動やレクリエーション、健康・体力づくりを目的にしたウォーキングなど従来から行ってきた活動の他、家庭菜園での野菜づくりやガーデニング、リサイクル等の作業活動など、利用者の状態に配慮した様々な活動が提供できるよう努めました。

- ・ 通所利用者の保護者には連絡帳や電話連絡、個別懇談を適宜実施、家庭での様子やニーズの把握に努めました。なかでも希望の多かった入浴サービスは8名の方が利用されています。

#### ③短期入所（延べ利用人員 I型 6名、II型 187名）

通所利用者の介護を行っている方が病気などの理由により介護を行う事ができない場合に短期間当事業所のショートステイ室を利用していただき、入浴・食事の提供などのサービスを提供しています。

#### ④日中一時支援（延べ利用人員 426名）

日中における活動の場を確保するとともに、利用者家族の就労支援やレスパイトを図ることを目的に支援を行っています。時差勤務者1名を配置し、ほぼ毎日2名の方が利用されています。

### □保健医療

今年度も利用者の健康維持を最優先に取り組んできたことも有り、感染症が蔓延す

ることもなく、健康状態はここ数年に比べると安定していた1年でした。

・体調の変化や痛みを訴えることが難しい方が多いことから、日々のバイタルチェックは状況に応じて頻度を変更したり、保清支援の際には身体確認を行うなど、変化を見逃すことのないよう努めました。また肺炎などで入院される方もおりましたが、発見が早かったことで重症化することはありませんでした。（通院998人、入院10件）。

・加齢に伴い、認知機能の低下と思われる症状を示す利用者が数名見られており、専門医、保護者を交えながら治療や日常生活上の支援について話し合いを持つなど、現在の生活を継続できるよう支援しています。

・感染症対策においては、手洗い・うがい・口腔ケアを基本に、インフルエンザ予防接種（2回）、肺炎球菌ワクチン接種を行うとともに、感染症流行期においてはバイタルチェックの回数を増やすなど体調の変化を早期に発見できるよう努めました。

・排便コントロールや疾病の状態に合わせ、特定保健用食品を積極的に取り入れました。

・体操やウォーキング、運動器具などを使いながら継続した機能訓練を実施するとともに、特定疾患や廃用症候群に伴う筋緊張や関節拘縮の改善を図るために訪問マッサージを受けています。

#### □給食

・利用者の栄養状態の維持、改善や食生活の質の向上を図るため、調理方法や献立を工夫するとともに、栄養ケア会議を通じて、他職種と連携しながら利用者個々の嚥下状態などに配慮した食事を提供しました。

・嗜好調査や利用者の方にも給食会議に出席していただくなかで個々のニーズを把握するとともに、行事食やバイキング、選択メニューを企画し「食」に対する満足度を高めるための様々な取り組みを行いました。

#### □余暇支援

・集団生活がマンネリ化しないよう班行事や自治会主催行事（夏祭り・クリスマス会）、選択行事などを多く取り入れるなかで気分転換が図られるよう努めました。また、利用者の身体機能の低下などにより外出する機会が少なくなる傾向にありますが、引率職員を増やすなど調整を重ねたことで要望の多かった野球観戦や温泉などを一泊旅行として企画することができ、普段の生活では味わうことのできない特別な時間を過ごすことができました。

#### □権利擁護と虐待防止

・施設内外の研修を通じて利用者の権利擁護、虐待防止についての啓発と意識の向上に努めました。また、虐待事例が報道された際は事例の報告と注意喚起を促す取り組みを行うとともに、利用者には自治会活動を通じて周知に努めました。

・また毎月「業務振り返りチェック」を実施し、職員個々の利用者支援に対する姿勢を振り返る機会を設けています。

#### □リスクマネジメント

・不測の事故、事態を未然に防ぐには十分な「見守り・観察」が必要とされます。また全職員が同じレベルで個々の利用者を見守り、場面ごとに注意すべき視点を共有することが重要です。今年度においても、サービス提供中のヒヤリハット報告の提出を励行し、ケース会議等で検証する中で、事故防止・再発防止に努めました。

事故報告 1件（裂傷）

アクシデント 18件

インシデント 6件

苦情件数 0件

#### □防 災

・防災安全対策の徹底と職員の危機管理意識の向上を図るため、年3回の避難訓練（火災2、地震1）と非常用放送設備の取扱説明会を関係機関の協力のもと実施しました。

・備蓄品においては定期的に確認、補充していますが、近年発生している大災害で被害を受けた福祉施設の対応などを検証し、どのような対策・備えが必要なのか情報収集に努め、今後の危機管理に役立てていきます。

#### □人材育成

・福祉人材の確保と定着については深刻な状況になっています。なかでも異業種から転職された職員は基礎知識がない事で対応に苦慮する場面が多々見受けられます。各種研修の受講や職員間の連携、エルダー制度などサポート体制を強化し、職員個々の資質の向上と定着に繋げていきたいと考えています。

※今年度の資格取得 精神保健福祉士1名、介護支援専門員1名、介護福祉士2名

#### □主な整備、修繕

・パネルヒーターガード設置

## デイセンターばんせい事業報告

平成30年4月、3年ぶりに障害福祉サービス等報酬改定が行われました。デイセンターにおいては、大きな減収を心配されていた就労継続支援B型は、一般就労者を輩出、定着させたことで体制加算がつき、平均工賃額（月額）の減少による基本報酬の減額等を補い、最終的にはプラスに転換する見通しです。しかし生活介護については、基本報酬が微増したものの送迎加算が下がったことにより、全体で若干の減収となりそうです。

デイセンターは経営的に、人件費の負担等も大きくなり、厳しい事業運営が続いています。利用者の利用率の向上、支出の削減はじめ様々な工夫をしながら、この状況を改善に近づけたいと考えています。

さて、平成29年度は法人からの強い支援があり、生活介護、就労継続支援B型ともに職員の増員、そして長年の懸案事項であった手狭な支援員室を、12月に拡張工事を実施しています。課題の一つでもある事務的な業務の多さや煩雑さについては、現在も一つ一つ整理し効率化を進めているところです。年度末に導入された支援記録システムも、4月から本格的に運用され、一段と改善が図られる見通しです。

また平成29年4月から週休二日制が導入されました。土曜日の営業については、利用者、家族の希望をはじめ、デイセンターの財政基盤を安定させるために、これまで通り営業を継続しています。

生活介護は、4名の利用者を新たに受け入れ実員32名となりました。生産活動は天候に悩まされることなく、予定していた収益を上げ終えることができました。活動内においては、創作活動と機能訓練が進展がしない状況が続きましたが、年度の終盤には話し合いを繰り返した結果、少しずつ改善の兆しが見えてきました。

利用者の通院による遅刻や早退、入院の回数も年々増加傾向にあり、入所施設同様高齢化の進行が感じられます。また単身生活している方の医療的な支援や休みがちな利用者の支援では、保護者、デイセンターだけにとどまらず、他の関係機関と相談し解決を探るということもありました。

就労継続支援B型は、実員12名の利用者で事業を進め、収益は1,560万円を超えました。ところが原材料肉の高騰で厳しい状況が続き、利益そして利用者工賃の圧縮を余儀なくされました。今後も原材料肉の価格の高止まりが予想されるため、平成30年4月から販売価格を値上げすることを決断しています。忙しさに拍車のかかる12月のギフトセット販売は、注文の取りまとめから梱包、発送、代金の受け取りを見直し、効率的に進

められるよう改善しました。音更町からは今回も「ふるさと寄付金活用事業」として、食肉加工場内の設備・備品の改修や更新を援助していただいています。その他、食肉加工製品細菌検査も予定通り実施しています。

## 利用者実績

### 生活介護

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	21	22	22	22	21	22	23	22	23	20	20	22	260
在籍利用者	30	30	30	30	31	31	31	31	31	31	31	32	32
利用延べ人数	519	542	553	555	532	556	581	520	531	454	487	564	6,394
平均利用者数	24.71	24.64	25.14	25.23	25.33	25.27	25.26	23.64	23.09	22.70	24.35	25.64	24.59
実績 (%)	82.38	82.12	83.79	84.09	84.44	84.24	84.20	78.79	76.96	75.67	81.17	85.45	81.97

実績は定員 30 人に対して

### 就労継続支援 B 型

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	21	22	22	22	21	22	23	22	23	20	20	22	260
在籍利用者	11	11	11	11	11	11	12	12	11	11	11	11	12
利用延べ人数	211	220	224	228	205	224	255	211	232	189	204	234	2,637
平均利用者数	10.05	10.00	10.18	10.36	9.76	10.18	11.09	9.59	10.09	9.45	10.20	10.64	10.14
実績 (%)	100.48	100.00	101.82	103.64	97.62	101.82	110.87	95.91	100.87	94.50	102.00	106.36	101.42

実績は定員 10 名に対して

## 事業の概要

### ・生活介護事業

個々の利用者の特性やニーズ、そして希望等に配慮しながら、生産活動、創作活動、行事等、日中活動を中心にサービスを提供しました。各活動を通して楽しむことはもちろんのこと、意欲を持って参加できることを目標にしています。また行事や土曜レクリエーションでは社会性やマナーを身につけることも大切にしました。課題の一つであった、創作活動、機能訓練では、話し合いや試行錯誤の結果、新しい取り組みがなされ、活動に幅が出てきています。

その他高齢化という側面からは、利用者の通院や入院回数の増加、入院期間の長期化がデイセンターでも見られています。また利用者の高齢化だけでなく、保護者の高齢化という問題もあり、各種相談だけに終わらず、ショートステイの利用、他機関利用の斡旋、同行等の支援も着実に増えています。

### ・就労継続支援事業 B 型

食肉加工製品作りに関しては、利用者、職員、それぞれに作業技術を高め、美味しく安全な食品作りを目指しました。これまで順調に販路の拡大や機械化による効率化を図り、収益、利益ともに順調に伸びていました。しかし、支出の 6 割を超える原材料肉が長期間高騰したことや、これまで免除されていた消費税の支払い等があり、採算性が悪化する事態となりました。工賃は前年度より時給 5 円アップで 100 円を維持できましたが、年度末の一時金が前年度の 1/3 程という結果に終わっています。最終的には、売り上げ 15,688,773 円、利用者工賃は一時金含め 9,846 円（月額平均）となりました。

今回も音更町より「ふるさと寄付金活用事業」として食肉加工場にある燻煙室の改修、回転釜の更新を援助していただいています。その他 12 月のギフトセット販売は、大口の購入先も現れ、ベーコン・ソーセージセット (3,000 円) 282 個、ソーセージセット (1,500 円) 422 個、合計 704 個販売することができました。注文の取りまとめから発送、代金の受け取りまでをパソコンを活用することに加え、デイセンターオリジナルのギフト箱 (2 個) 作製、ゆうパック特別運賃契約等、効率化と経費削減はもとより、送料を安く設定しお求めになりやすくしました。年度末には専門機関による食肉加工製品細菌検査（保存検査）を実施し、消費期限の見直しを行うことになっています。

一般就労については、地域支援センターらいつの協力により、4 月に 20 代前半の男性

1名を輩出することができました。しかし社会経験の少なさ精神的な幼さ等から、その後退職する結果となっています。

### ○主の売り上げ、販売実績

<b>振込関係</b>	<b>4,832,068円</b>	<b>現金販売</b>	<b>8,671,100円</b>
内訳 ふるさと納税の返礼品	2,347,550円	<b>給食関係</b>	<b>929,390円</b>
有沢精肉店	883,434円	内訳 晩成学園	740,270円
ららマルシェ	323,560円	緑陽荘	105,350円
しらかば薬局	315,000円	その他	83,770円
オークル	308,100円	<b>直売店</b>	<b>806,920円</b>
グリーンストーリー	294,000円	<b>各種イベント販売</b>	<b>449,270円</b>
北海道ホープランド	201,724円	(11 イベント参加)	
その他	158,700円	その他(金利)	25円
		<b>合計</b>	<b>15,688,748円</b>

### 各種活動

#### ・生産活動(生活介護)

生産活動では、花豆、馬鈴薯、ハウス野菜等18種類の作物と3種類の花苗を作りました。11月からはしめ縄作りも加わり102個の製品を販売することができました。全体で収入 予算に無事到達しています。栽培や収穫、製品作りにおいては、楽しみながら行うことと作る喜びを感じながら活動に参加できるよう支援しました。また生産活動を通して、身体を動かし体力の維持や向上に結びつくようにも働きかけました。

#### ・創作活動(生活介護)

創作活動は自由画、貼り絵、壁面装飾(季節の作品~こいのぼり、セミ、さつまいも、雪の結晶)、氷のお面等に取り組んでいます。恒例の「みんなあ〜と(北海道知的障がい者芸術祭)」には29作品出展し、4作品が入選を果たしました。これらの作品は、センター便りや収穫祭、保護者懇談会等でご家族にも見てもらっています。創作活動は当初職員が困惑する状況が続きましたが、話し合い等を繰り返した結果、今では作品は色彩の豊かなもの、立体的なものといったように、少しずつ変化が見られています。全体作品においても個々の利用者の役割分担を見直し、できるだけ誰もが携われるようにしています。

#### ・行事・グループ別活動・土曜レクリエーション

全体活動とグループ活動の2種類があります。ともに利用者の希望を取り入れることを第一に、季節感を取り入れながら行っています。要望のあった生活介護での一泊旅行は、十勝川温泉で実施し20名の利用者が参加され楽しまれています。保護者参加行事の収穫祭は、利用者35名、保護者22名、職員16名、総勢73名で実施しています。今回は屋台形式の模擬店で昼食を楽しみながら、同時にスライドやビデオで日頃のデイセンターの活動を見てもらっています。最後は全員で紐引きくじを行いにぎやかに過ごしました。土曜レクリエーションについては年間19回実施、その他開所記念昼食会、納涼レクリエーション、忘年会、慰労会、調理実習等も楽しんでいます。

#### ・スポーツ活動

晩成学園体育館を利用して、ウォーキング、バドミントン、ボウリング、体操等を行っています。その他サンドームおとふけ、音更町温水プールの利用をはじめ、少し遠方へ行きサイクリング、アーチェリー、クロスカントリー等も取り組んでいます。デイセンター内では、毎日のDVD体操、エアロバイク、ウォーキング等行っています。各種スポーツ大会については、6月全道パークゴルフ大会1チーム参加(札幌市)、9月十知協パークゴルフ大会2チーム参加(中札内村)、10月十知協アジャタ大会1チーム参加といった状況です。

#### ・給食



健康管理のためバランスの取れた昼食を提供するとともに、日常生活の中の楽しみの一つとして大切にしてきました。計画的に「バイキングメニュー」「選択メニュー」を設定し、いつもとは違う食事を楽しんでもらっています。給食運営会議、検食の結果をはじめ、趣向調査を実施して、アレルギー等の禁止食品や食べ物の好き嫌いを把握しています。また咀嚼や嚥下機能に衰えを見せる利用者も現れはじめ、昼食中の事故が無いよう注意も払っています。

#### ・健康管理

連絡帳や電話連絡、通所後のバイタルチェック等で利用者の体調把握をし、必要に応じて看護師の指示を受けています。夏期は熱中症対策としての水分補給、冬期は感染症対策を徹底してきました。特に1月2月とインフルエンザA型B型が流行する中、デイセンター内でも大流行の危険性がありましたが、掃除消毒を徹底することで辛うじて回避することができました。体重の増加等に注意を払わなければいけない利用者も多く、ウォーキング、スポーツ活動、生産活動への参加等、できるだけ身体を動かす機会を持つよう心がけました。機能訓練については、試行錯誤を繰り返しながら、介護予防という視点も取り入れ、ゴムチューブ、バランスボール等も活用しながら行っています。

#### ・リスクマネジメント（事故報告及び苦情解決）

センター利用中の事故やヒヤリハットに関する報告の徹底と、アクシデント報告検討会議を実施してきました。今年度事故報告3件、ヒヤリハット101件となっています。事故やヒヤリハットの内容としては、転倒や躓き等に関するものが大部分を占めています。その他けが人等は出ていませんが、職員の車両事故が2件発生しています。

#### ・防火・安全対策

消防計画に基づいた火災避難訓練を2度実施し、利用者、職員に防災への意識を高められるようにしました。避難訓練後は、消防の協力のもとDVD等を見ながら防災学習をしています。また今回不審者への対応として、「不審者対応マニュアル」を作成し、その訓練も実施しています。

#### ・職員研修

職員集団の専門性を高めるため、内部研修及び外部研修に積極的に参加しています。特に権利擁護や虐待防止に係わるものには、欠かさず参加するよう心がけました。新規採用者へのエルダーについては、すっかり定着し効果が出てきています。それとともに、役職者との面談も取り入れています。

#### ・主な設備及び備品購入等

スタッドレスタイヤ2台分（マイクロバス、ハイエース）

ソファ更新（2脚）

折りたたみベッド（1台）、スクリーン（2面）

支援員室拡張工事

食肉加工製品細菌検査の実施

食肉加工場燻煙室の改修、回転釜の更新（音更町ふるさと寄付金活用事業）

## 地域支援センターらしい事業報告

はじめに

平成29年度の我が国経済を見ると、アベノミクスの推進により、雇用・所得環境の改善続く中で、緩やかに回復している。海外経済が回復する下で、輸出や生産の持ち直しが続くとともに、個人消費や民間設備投資が持ち直すなど民需が改善し、経済の好循環が実現しつつあります。

政府は、持続的な経済成長の実現に向け、「生産性革命」と「人づくり革命」を車の両輪として、少子高齢化という最大の壁に立ち向かうため、平成29年12月8日に「新しい経済政策パッケージ」を閣議決定した。あわせて、追加的財政需要に適切に対処するため、平成29年12月22日に平成29年度補正予算を閣議決定した。雇用・所得環境の改善が続く中、各種政策の効果もあって、景気は緩やかな回復が続くことが見込まれます。

一方障害者福祉制度・施策に目を転じますと、平成25年9月には、「第4次障害者基本計画」の前身に当たる「第3次障害者基本計画」が閣議決定された。第3次障害者基本計画では、各分野に共通する横断的視点として、「障害者の自己決定の尊重及び意志決定の支援」、「当事者本位の総合的な支援」、「障害特性等に配慮した支援」、「アクセシビリティの向上」及び「総合的かつ計画的な取組の推進」の5点が掲げられるとともに、10の施策分野ごとに基本的考え方や具体的な取組が示されており、第4次障害者基本計画の策定に至るまでの間、障害者政策委員会における実施状況の監視を経ながら、それぞれの分野で着実に取り組みが進められてきました。

そうした中当事業所は、平成18年の準備室開設から12年が経過し、この間定員が40名から90名、ホーム数も7ホームから18ホームに増えて大所帯となっています。また、制度改正も幾度となく行われ、とりわけ消防法と建築基準法の改正により、消防用設備等の設置基準が改正され、平成30年3月末までに設置義務のあった自動火災報知設備の整備については、全ホームが完了しています。

利用者支援については、高齢期を迎えてからも住み慣れた環境のもとで生活を続けることが望ましいわけですが、加齢に伴う身体機能の低下に加え、こだわりが増える、新たな行動障害が出る、物忘れや認知症が発症する等支援の困難さが増し、また、深夜の時間帯に職員の配置をしていないため、利用者の急な体調不良や突然の怪我が発生した場合に早期発見が難しく、安全等に支障を及ぼしかねない現状にある。今後、安心・安全の確保が十分にできる体制の整備や物理的条件を整えていくことが、大きな課題となっています。

## 1. 事業体系

### (1) 利用現員

グループホーム（共同生活援助（介護サービス包括型）事業）

ナインハイツ（男性4名）・こずえホーム（男性4名）・いちいホーム（女性2名）  
 ホーム飯高（男性4名）・ハイツ木野（女性3名）・ひまわり（男性4名）  
 ハイツ97（男性8名）・木野住宅（男性5名）・鈴蘭住宅（男性5名）  
 太陽（男性6名）・コスモス（女性6名）・すみれ（女性6名）  
 ラベンダー（女性6名）・ポラリス（男性5名）・どりーむ（男性4名）  
 ひびき（男性5名）・みずき（男性3名・女性1名）・朝陽（男性4名）

※平成30年3月31日まで

### (2) 事業の利用率（％）

事業	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
らいふ	95	93	95	95	92	97	95	95	92	90	95	96	94

### (3) 月別 現員・利用開始・終了の状況

月	現員			利用開始			終了		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計

4月	61	25	86	1		1			
5月	61	25	86						
6月	61	25	86						
7月	61	25	86						
8月	61	25	86						
9月	61	25	86						
10月	61	25	86						
11月	61	25	86						
12月	61	25	86						
1月	61	25	86						
2月	61	25	86						
3月	61	24	85	1		1	1	1	2
合計	—	—	—	2	0	2	1	1	2

(4) 障害支援区分の状況

性別	障害支援区分						計
	非該当・1	2	3	4	5	6	
男性	9	16	20	14	2		61
女性	2	7	3	10	2		24
合計	11	23	23	24	4		85

平成29年3月31日現在

(5) 年齢状況

性別	利用者数	最高齢	最年少	平均年齢
男性	61	80才	18才	49.2才
女性	24	77才	20才	49.7才
合計	85			49.3才

2. 運営体制

- ・2係体制を敷き、18ホームの支援に当たっています。
- ・勤務体制は、平日早番2名、平常4名～5名、遅番3名～4名、日祭日（1日通し）2名としています。
- ・各ホームは担当割りとして、班職員で相談・協力により利用者を支援し、また業務分掌も同様に分担しています。

3. 日常生活支援

①生活支援

- ・自立生活を送る上で必要となる社会人としての自覚を高め、多くの社会経験を重ねていくことを目指し支援してきました。特に対人関係を保つための社会的なルール、仕事をする上での責任など、利用者に理解しやすい日常的な事柄に即して支援しました。
- ・利用者が適切な支援を得るために自己の意志を表現することができるよう、利用者・世話人・支援員の関係の構築に努め、各々が安心して生活できるよう個々の心配事や悩み、不安に対して親身に受け止め安定を図れるよう支援しました。
- ・訪問を通して利用者個々の生活状況、健康・精神状態を把握し、日々の生活の中の悩みや不満、将来への不安等を聴き取り、個別支援計画に沿った適切な助言や支援の提供に努めました。

- ・日中や夜間（訪問時）に買い物引率や余暇支援、入浴支援を行う等、利用者個々の状況に応じた支援を充実させました。

- ・日中活動が休みの日や、体調を崩して療養及び静養しているときには、一日を通して職員の配置が必要となるなど、これまでの対応では難しくなってきたことから、必要な時間に職員を配置できるよう調整を行うとともに、利用者の状況に応じて見直しを行いました。

- ・高齢化により身体機能の低下や物忘れ、認知症を発症し、日常生活に支障を来す利用者も出始めているため、安心・安全な生活を確保できるような職員の配置や、夜間支援体制の整備が課題です。

#### ②健康管理

- ・音更町の一般・特定健診及びがん検診、勤務先や活動先（晩成学園、すまいる通所者は秋の健診を受診）若しくは掛かり付けの医療機関で健診を受けています。そのほか、中高齢者の女性利用者には骨粗鬆症検査、もの忘れが日常生活に支障を来し始めた方には、緑ヶ丘病院で認知症検査を行っています。

- ・今年度もインフルエンザ予防接種に加え、65歳以上の方を対象に「肺炎球菌ワクチン接種」を行っています。

- ・利用者の健康維持のために、定期的な通院と必要に応じての通院加療、投薬の管理を世話人と職員とで行っています。また、利用者自身での健康管理を促すために、うがいや手洗い、消毒、食後の歯磨き、定時薬の服用や塗布について、自身で行えることは行ってもらい確認を行ってきました。

- ・歯科通院については、歯科検診を含めて定期的に受診するようにしてからは、治療が長期化する人が減っているため、今後も日頃の歯磨きの励行、義歯の管理や口腔内の保清への支援及び定期的な検診を実施する必要があります。

- ・年齢に関係なくメタボリック症候群や生活習慣病の予備軍と指摘され、健診の結果でも精検・再検の対象者が多いため、日頃からの食生活や健康管理に配慮する必要があります。

#### ③食事の提供

- ・食事は栄養と健康を維持するだけでなく、利用者にとって日々の生活の中で大きな楽しみとなっています。旬の食材を使用した季節感の感じられる食事や、個々の健康状態に合わせた治療食の提供や嗜好に合わせたメニューの選定等質の高い食事を心がけてきました。また、夕食・朝食とも世話人が、基本的には当日購入した食材をその日のうちに調理し、提供するように努めました。

- ・日中活動を休んでホームで過ごしている方には、カロリー制限や塩分制限、禁止事項を考慮した宅配弁当を提供しています。

- ・「ひとり暮らし」を希望している利用者には、メニューの選定、買い物、調理に参加してもらう等、次のステージに向けて働きかけを行いました。

#### 4. 日中活動支援

- ・利用者が通勤している就労先と常に連携を取り、経済的自立に向けて利用者が安定して休まずに通えるため就労先とセンターとで日中・夜間通して一貫した支援を行うよう努めました。

- ・個別に問題が発生した際には就労先並びに日中活動先と連携を図り、解決策についての相談・検討を重ね、問題解決に努めました。

- ・通所系のサービスを利用する方については活動先との連絡調整が増加傾向に

あり、特に早退や休所、食事の有無等の確認が煩雑ではありますが、個別の状態を把握して今後も連絡を取り、安定して利用できるように配慮していきたい。

〈就労先〉

事業所名	人数	事業所名	人数
十勝ランドリー有限会社	8名	DCMホームック株式会社	1名
北海道製鎖株式会社	4名	十勝冷凍食品株式会社	1名
株式会社満寿屋商店	1名	株式会社ヒシガタ	1名
音更町農業協同組合	2名	有限会社パールクリーニング	1名
株式会社エフビーエス	1名	社会福祉法人音更晩成園	1名
株式会社ダイイチ	3名	株式会社福原	1名
東陽製袋株式会社	4名	株式会社しまむら	2名
株式会社長崎屋	2名	有限会社ヤマトおしぼり	3名
杉山農場	1名	有限会社ジャストフーズ	1名
富士金網製造	2名	株式会社中野製作所	1名
株式会社柳月	3名	二子口畜産株式会社	1名
医療法人徳洲会帯広徳洲会病院	1名	山本農場	1名

〈活動先〉

法人名	施設・事業所名	人数
社会福祉法人音更晩成園	障がい者支援施設 晩成学園	8名
	障がい者支援施設 緑陽荘	5名
	障がい福祉サービス事業所 デイセンターぱんせい	22名
特定非営利活動法人どんぐりの家福祉会	どんぐりの家	5名
社会福祉法人音更町柏寿協会	在宅老人ケアセンター らんらん	1名

5. 金銭管理

- ・利用者預かり金管理規程及び金銭出納管理サービス契約書にて利用者の預かり金等の取り扱いに関する事項を定め、管理の適正を図っています。
- ・家賃は利用者数にて均等割し、一人当たり20,000円～50,000円（特別給付費を含む）とし、光熱水費、日用品費、食費などの生活費については従来どおりホーム単位で精算しました。
- ・毎月の生活費は各ホームもしくはらいふにて管理している利用者の預金通帳より出金し、世話人はホームの金庫、支援員はらいふの金庫で管理しました。毎月末には各項目別に収支報告書を作成し、らいふにて確認・監査を受けています。
- ・利用者の日々の小遣いは、各自の財布にて個人管理し、随時世話人及び支援員と共に残金を確認しています。
- ・預貯金も少なく、生活費などの不足が予想される利用者に関しては、今後生活保護を利用する等の支援も視野に入れなければなりません。

6. 施設入所者の地域移行に伴う住居の新築

障がいのある人の居住の自由や障がい者自身の地域生活に対する希望を実現するため、国は、各種障がい福祉サービスを充実させるとともに、入所施設等からの地域移行を数値目標を立てて推進しています。

当法人では現在、障がい者支援施設「晩成学園」及び「緑陽荘」の施設整備

申請書を道に提出しており、採択された折には国の方針に従って定員削減を行い、現入所者の15名～20名程度の地域移行を予定しています。そこで当事業所では、一昨年より道内数カ所の共同生活事業所を訪れて情報収集を行い、木野西寮跡地等を候補地とし、「常時介護を要する障がい者等に対する支援」「高齢の障がい者に対する支援」に共通する課題である、重度障がい者を主な入居者のイメージとし、入居者に合わせた仕様（プライバシーに配慮した個室、バリアフリー、スロープ、手すり等）、スプリンクラーの整備、1住戸の定員等、細部にわたり検討し建設準備を進めています。

#### 7. 夜間支援体制の導入

夜間及び深夜の時間帯にスタッフを配置するかどうかは、各事業所の判断に委ねられているため、夜間及び深夜の時間帯にスタッフが不在のグループホームも珍しくなく、当事業所についても同様です。また、現行制度では、夜間支援を、「夜勤」「宿直」「夜間防犯体制又は常時の連絡体制を確保している」の3類型に区分し、当事業所では「夜間防犯体制又は常時の連絡体制を確保している」を採用し、セコム株式会社とセキュリティサービスの契約を結び、緊急時に備えて「非常災害時緊急連絡網」を整備し対応に当たっていますが、近年は、どんなに重い障がいを持っていても地域で暮らすことが当然という理念が浸透したことで利用者全体の高齢化から、利用者の重度化が進んでおり、一層夜間支援の必要性が高まっています。夜勤での夜間支援体制を維持する職員を確保するのが予算面と人材不足の両面で困難ではありますが、利用者の人権、安心した生活を保障するためには、夜間及び深夜の時間帯の支援は「夜勤」を行う支援従事者を配置し、利用者に対して必要な介護等の支援を提供できる人的体制を確保しなければなりません。そこで現在、夜間支援体制導入に向けて、勤務形態（夜勤・巡回型）、夜間支援従事者の常駐場所、常駐場所と事業所間の連絡体制、夜間支援体制を確保する時間帯等の課題を整理し、準備を進めているところです。

#### 8. 安全管理

常に安全管理の意識を持ち、ヒヤリハットや軽微な事故があった場合には所定の報告書を作成し、ヒヤリハット・アクシデント会議で分析・評価を行い、

事業所全体の危機管理・安全管理の意識向上に努めました。

項目	事故	初発	項目	事故	初発
1) 転倒・転落・けが等	1件	5件	2) 異食・禁食物摂取		
3) 誤嚥			4) 服薬関係		
5) 経管栄養	—	—	6) その他医療行為		
7) 所在不明・無断外出		3件	8) 車関係	2件	
9) その他（行動面等）		1件	合計	3件	9件

#### 9. 防災訓練の実施、防犯体制の整備

- ・火災震災等に関してはそれに対応すべく、年2回火災避難訓練、年1回自然災害避難訓練を実施しました。

- ・セコム株式会社とセキュリティサービスの契約を結び、火災や犯罪等の異常事態に備えています。

ホーム名	火災避難訓練	自然災害避難訓練	ホーム名	火災避難訓練	自然災害避難訓練

ポラリス	7/5、1/23	9/7	みずき	6/28、1/23	9/1
ホーム飯高	7/5、2/1	9/5	コスモス	6/27、1/29	9/1
木野住宅	6/30、1/24	9/7	ひびき	7/4、1/24	9/1
ナインハイツ	7/4、1/22	9/4	どりーむ	6/30、1/22	—
太陽	6/29、1/25	9/1	すみれ	6/27、1/23	9/5
ひまわり	6/29、1/22	9/7	ハイツ木野	6/27、1/25	9/4
ハイツ97	7/3、1/25	—	いちいホーム	6/29、1/25	—
こずえホーム	7/4、1/22	9/7	朝陽	6/28、1/19	—
ラベンダー	7/3、1/10	9/5	鈴蘭住宅	7/3、1/24	—

## 10. 平成29年度の主な施設整備

### ①自動火災報知設備整備（13住居）

## 法人事務局事業報告

### 理事会開催状況

第1回 理事会 平成29年6月2日開催

- 協議事項
- ◎平成28年度事業報告について
  - ◎平成28年度音更晩成園資金収支決算について
  - ◎平成28年度決算監査報告について
  - ◎施設整備計画（改築）の事業実施について
  - ◎社会福祉充実計画について
  - ◎定時評議員会の開催について
  - ◎諸規程・諸規則の一部改正について
  - ◎役員を選任について

第2回 理事会 平成29年6月21日開催

- 協議事項
- ◎理事長、副理事長、常務理事の選定について

第3回 理事会 平成29年9月9日開催

- 協議事項
- ◎苦情解決第三者委員の選任について
  - ◎旧西寮の解体工事の実施について
  - ◎デイセンターばんせい事務室の拡張修繕について

第4回 理事会 平成29年12月15日開催

- 協議事項
- ◎施設整備計画（改築）の事業実施について

第5回 理事会 平成30年3月26日開催

- 協議事項
- ◎定款変更について
  - ◎平成29年度音更晩成園資金収支補正予算案について
  - ◎平成30年度事業計画について
  - ◎平成30年度音更晩成園資金収支予算案について
  - ◎障害者総合支援法事業所変更指定申請書及び変更届の提出について
  - ◎評議員会の開催について
  - ◎社会福祉充実計画（案）について

### 評議員会開催状況

第1回 評議員会 平成29年6月21日開催

- 協議事項
- ◎平成28年度事業報告について
  - ◎平成28年度音更晩成園資金収支決算について

- ◎平成28年度決算監査報告について
- ◎施設整備計画（改築）の事業実施について
- ◎諸規程・諸規則の一部改正について
- ◎役員を選任について

第2回 評議員会 平成30年3月26日開催

- ◎定款変更について
- ◎平成29年度音更晩成園資金収支補正予算案について
- ◎平成30年度事業計画について
- ◎平成30年度音更晩成園資金収支予算案について
- ◎障害者総合支援法事業所変更指定申請書及び変更届の提出について
- ◎社会福祉充実計画（案）について

### 道実地指導の実施

平成29年9月28日

デイセンターばんせい 生活介護・就労継続支援B型

### 法人監査実施状況

第1回 平成29年5月29日

- ◎平成28年度事業運営と決算状況について

第2回 平成29年8月7日

- ◎平成29年度第1・四半期の運営と経理について  
各会計収支執行状況及び利用者預り金の管理状況について

第3回 平成29年11月2日

- ◎平成29年度第2・四半期の運営と経理について  
各会計収支執行状況及び利用者預り金の管理状況について

第4回 平成30年2月5日

- ◎平成29年度第3・四半期の運営と経理について  
各会計収支執行状況及び利用者預り金の管理状況について

### 虐待防止委員会開催状況

第1回 平成29年5月18日

- ◎平成29年度虐待防止委員会の組織について
- ◎平成29年度虐待防止委員会の業務推進について

第2回 平成30年2月21日

- ◎事業所部会の報告について
- ◎平成30年度虐待防止委員会の業務推進について

### 職員研修会

第1回 平成29年10月31日

参加者 法人役員評議員 5名  
          法人内職員 58名

場所 音更町総合福祉センター

町内施設関係者 21名

- ◎アンガーマネジメントセミナー  
～講師 コミュニケーション・デザイン結 代表 桜井 妙氏

第2回 平成30年1月19日

- ◎創設者 「茂古沼 勲氏」の歩みについて  
～講師 総合施設長 菅原資之

### 法令遵守検討会議開催状況

第1回 平成29年6月14日



## 施設整備関連

- 平成29年4月20日 建物老朽度調査
- 平成29年7月24日 施設整備計画申請書提出
- 平成29年11月8日 音更町農業委員会現地調査
- 平成30年1月14日 東土狩行政区施設整備概要説明
- 平成30年1月16日 施設整備計画申請書（単年度差し替え）提出
- 平成30年2月26日 音更町農業委員会農業振興地域整備計画・農地転用審査

## 改築検討委員会開催状況

- 第1回 平成29年 4月24日
- 第2回 平成29年 5月16日
- 第3回 平成29年 6月 6日
- 第4回 平成29年 7月11日
- 第5回 平成29年 7月31日
- 第6回 平成29年 9月 6日
- 第7回 平成29年10月19日
- 第8回 平成29年12月 5日
- 第9回 平成30年 1月25日
- 第10回 平成30年 3月 8日

## 旧木野西寮解体工事

- 平成29年10月25日 解体工事開始
- 平成30年 1月26日 解体工事完了
- 平成30年 2月 9日 財産処分完了報告（振興局）

## 保護者会行事「夏まつり」の実施状況

- 平成29年6月24日 晩成学園にて410名参加

## 役員等研修の実施

- 役員 十勝社会福祉法人経営者懇談会総会・研修会（帯広市）  
平成29年4月27日 参加者 1名
- 全国社会福祉法人施設経営者大会（四日市市）  
平成29年9月13日～16日 参加者 4名
- 社会福法人ブロック研修会（帯広市）  
平成29年 9月 5日 参加者 2名
- 保護者会視察研修（釧路市）  
平成29年10月12日～13日 参加者18名
- 衛生委員会施設内研修「メンタルヘルスケア」  
平成30年1月19日 参加者32名
- 平成30年2月16日 参加者41名

## 役職員等の動静

- ◎理事 就任 6月21日付 小針 誠治（理事長重任）  
浜井 信一（副理事長重任）  
菅原 資之（常務理事重任）  
中川 康則（重任）  
細木 秀則（重任）  
吉田 憲一（重任）  
栗林 秀治（重任）  
東端 恭子（重任）
- ◎監事 退任 6月21日付 石田 秀誠  
就任 6月21日付 菊地 勝春（重任）

◎評議員 就任 4月 1日付 白岩 征之 (新任)  
 伊藤 雅明 (新任)  
 薩田 裕秀 (新任)  
 高金 國男 (重任)  
 中塚 孝子 (重任)  
 林 真佐子 (重任)  
 平田 松征 (新任)  
 山本 博章 (重任)  
 山本 良二 (重任)  
 吉本 隆嗣 (新任)

◎職員 採用

4月 1日付 長内 比呂(晩成学園支援員)  
 金子 昌恵(晩成学園支援員)  
 金須裕美子(緑陽荘支援員)  
 小林 美穂(晩成学園臨時調理員)  
 5月26日付 山内 真人(らいふ支援員)  
 道見 真菜(デイセンターパート支援員)  
 6月 2日付 中捨みどり(晩成学園パート調理員)  
 7月 1日付 佐藤 優稀(らいふ支援員)  
 9月 1日付 宮井 寛 (晩成学園支援員)  
 青木恵梨佳(緑陽荘支援員)  
 10月 1日付 宮崎 正樹(晩成学園支援員)  
 11月 1日付 金 克也 (緑陽荘支援員)  
 12月 1日付 阿部 美佳(デイセンター支援員)  
 2月 1日付 小高 洋子(晩成学園支援員)  
 田村 和之(緑陽荘支援員)  
 米田 仁美(デイセンター支援員)  
 永嶋 静子(緑陽荘臨時調理員)

退職

4月11日付 金須裕美子(緑陽荘支援員)  
 5月19日付 島倉 信 (らいふ支援員)  
 5月31日付 松田 洋子(晩成学園臨時調理員)  
 5月31日付 山内 真人(らいふ支援員)  
 9月 7日付 久保 摩里(晩成学園臨時支援員)  
 9月30日付 鬼頭 敬子(晩成学園パート配膳員)  
 11月30日付 杉山千恵子(デイセンター支援員)  
 3月 9日付 高倉 則子(デイセンターパート調理員)  
 3月13日付 中捨みどり(晩成学園パート調理員)  
 3月31日付 河内 恵子(らいふ支援員)  
 横井美智代(緑陽荘支援員)  
 小野 圭太(らいふ支援員)  
 中山かおり(晩成学園支援員)  
 佐藤 栄 (緑陽荘臨時調理員)

諸規程の改正

- ◎経理規程
- ◎定款
- ◎晩成学園運営規程
- ◎緑陽荘運営規程

- ◎デイセンターばんせい運営規程
- ◎地域支援センターらいふ運営規程